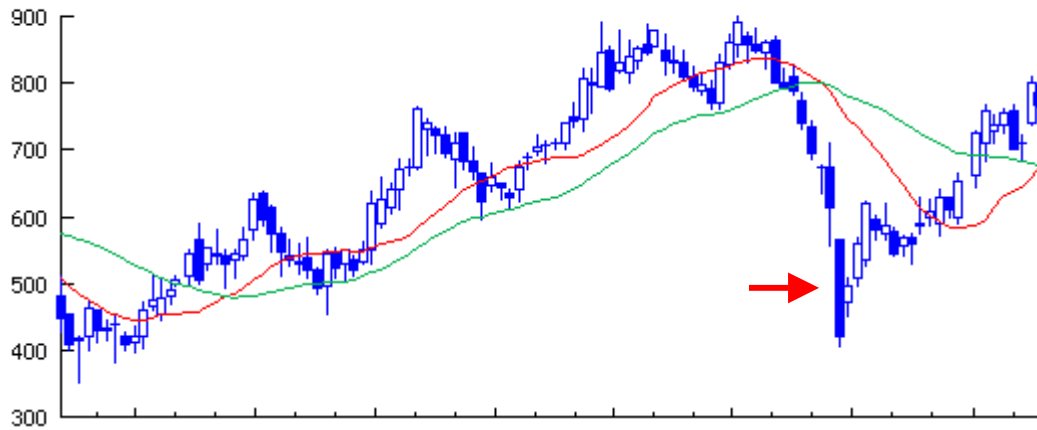


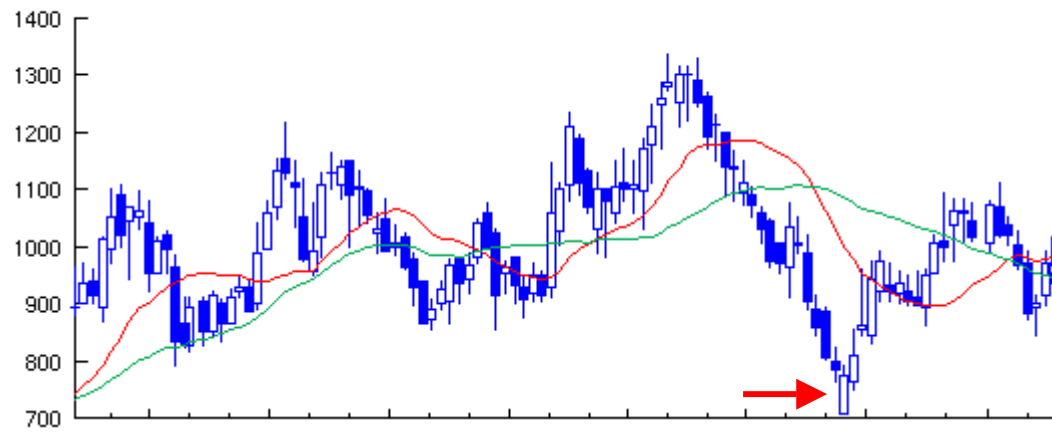
「ローソク足底値圏での買いシグナル」

「はらみ線」



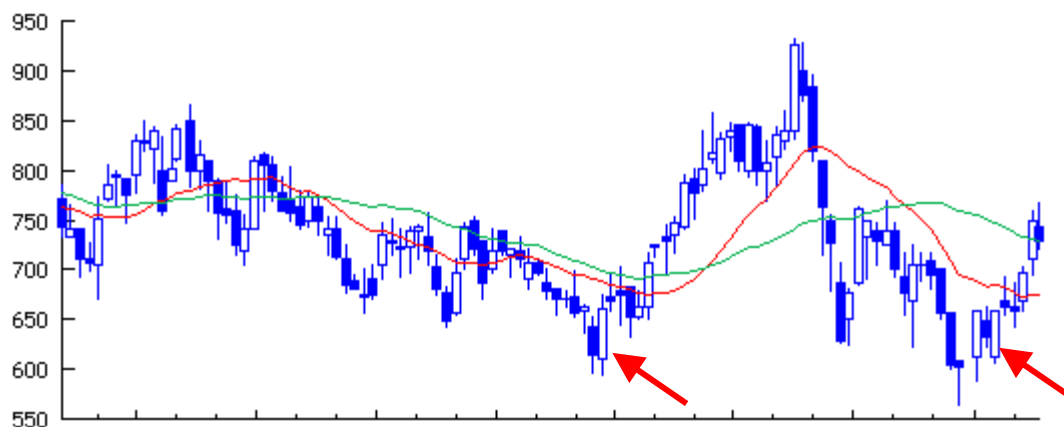
大きく下落した後「はらみ線」の出現で反発に転じた例です。
高値から一直線に下落し長大陰線に陽線がはらみ「はらみ線」を形成。
急落、大底圏での「はらみ線」出現は相場の転換を暗示する重要な買いシグナルと考えてよいでしょう。

「下放れ陽線」



大きく下落した後の底値圏に「下放れ陽線」が出現した例です。
最後の投げ売りが出尽くすと共に、新たな買い勢力の出現を意味しています。
株価が長期下落の末期に「下放れ陽線」が出現すれば重要な買いシグナルとなります。

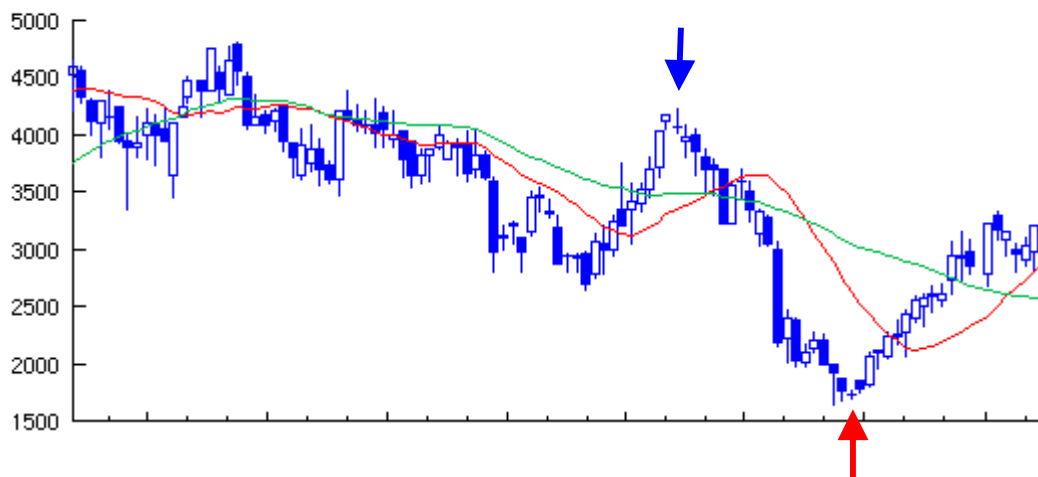
「つつみ線」



長期下落後の安値圏に「つつみ線」が出現した例です。

長期下落後に「つつみ線」が出現するという事は、それまでの売り勢力を飲み込んでしまうほどの新たな買い勢力の出現を意味し、相場が反転する重要なポイントとされています。包み込む陽線は大きい程良いとされ、安値圏での出現は重要な買いシグナルと言えるでしょう。

「十字線」



大きく下落した後に下放れ「十字線」が出た例です。

大きく下落した安値圏での下放れ「十字線」の出現は重要な買いシグナルとされており、上のチャート図では天井圏で「十字線」が現れてから株価の下落が始まり、底値圏で「十字線」が現れてから株価は上昇に転じております。

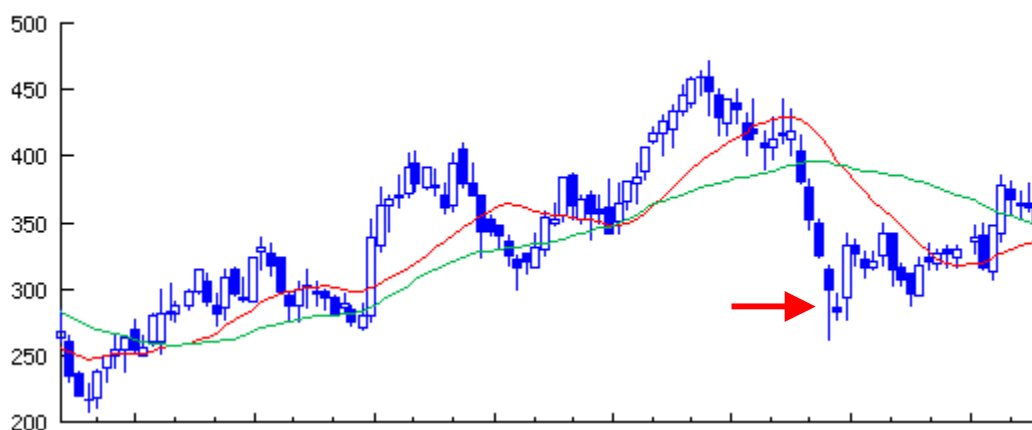
「十字線」とは気迷い線であり相場の節目に現れる事が多く、相場の流れの変化を暗示する線と言えるでしょう。

「切込み線」



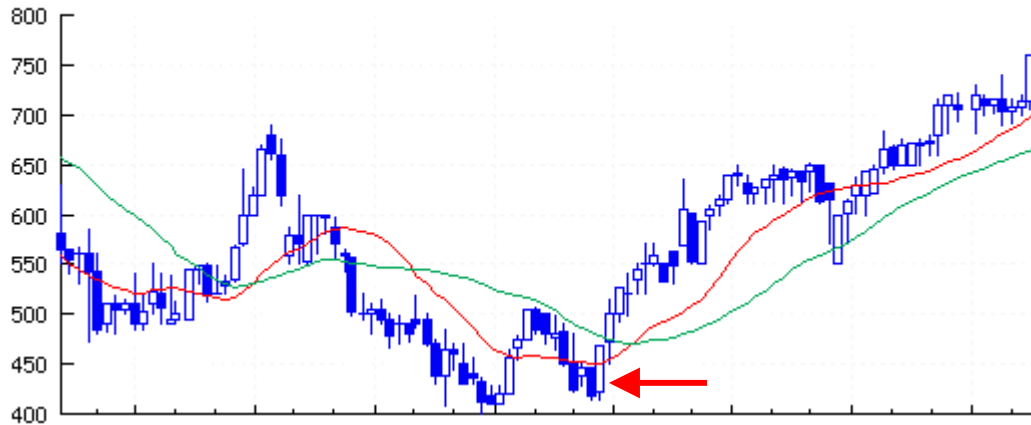
前陰線の終値よりも安く始まったものの、終値は前陰線の中心を上回り売物を吸収した買い勢力の強さを表しています。大きく下落した安値圏で「切込み線」が出れば相場の買い転換を暗示する重要な買いシグナルとされています。天井圏での「かぶせ線」と逆のパターンですのでセットで覚えておくと良いでしょう。

「長い下ヒゲ」



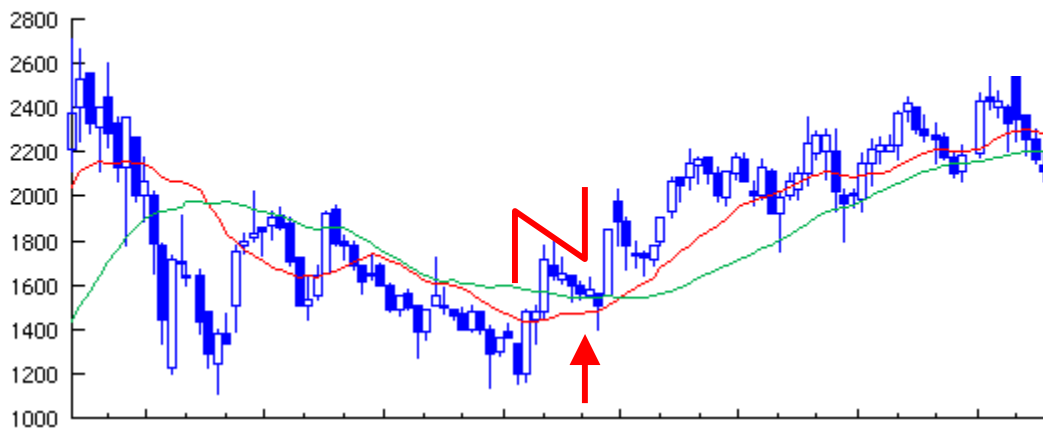
大きく下落した安値圏で長い下ヒゲを付けると相場の底入れと判断されています。一旦大きく売り込まれたが最終的には買い上げられて終値は全体の値動きの中心値以上で終わっているパターンです。これはその値段帯には大きな買い勢力がいる事を表しており、今後の下値支持帯となる事も意味しております。大きく下落した後に長い下ヒゲを付ければ相場転換を暗示する重要なシグナルと言えるでしょう。又下ヒゲが長い程その確率も高いとされております。

「たすき線」



底値圏での「たすき線」は別名「V字反発線」とも言われており、今までの下降相場からの急反発を暗示する重要なシグナルとされています。前陰線の終値よりも高く始まり、終値は前陰線の始値よりも高く終わったパターンです。売り一巡後の強力な買い勢力の出現を意味しており、見落としてはならない重要な形と言えるでしょう。

「N字底」



株価の動きがアルファベットの「N」の字に似ていることからそう呼ばれています。底値圏で株価が上昇し、その後小刻みに下落するが再度上昇してN字型が出れば株価の底離れを暗示していると言われております。

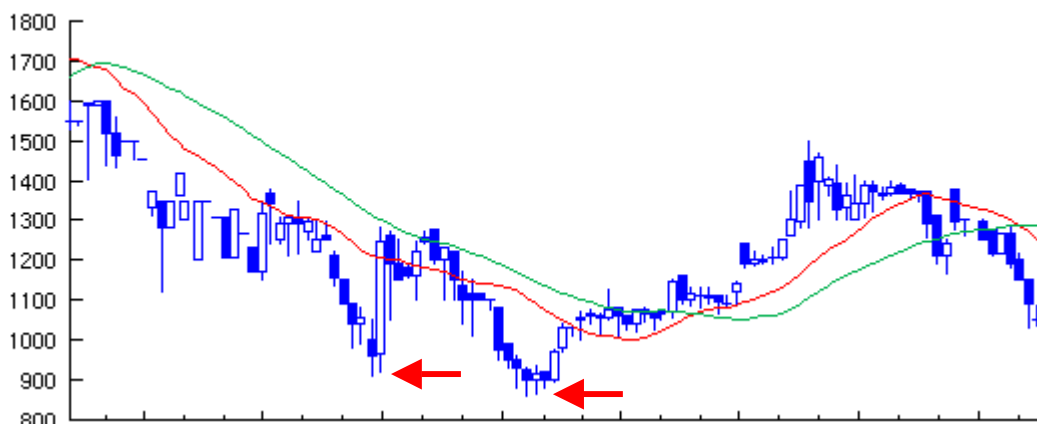
「W底」



一般的にはダブル底と言われており大きく下落した安値圏でこの形が現れたら相場の底入れとその後の上昇を暗示しているとされています。

大きく下落して安値をつけ、一旦上昇し再度下落。しかし前回の安値を下回らずに上昇したパターンです。その安値近辺には大きな下値支持帯が存在しており底入れ感が急速に広まると考えられています。買い勢力にとっては下値の不安無く安心して買い上がって行けると言う事を意味しています。

「毛抜き底」



安値 2 点がほぼ並んでいる状態であり、下げの途中でも出現するが大きく下落した安値圏での出現は相場反転を暗示するとされています。

安値 2 点が並ぶと言う事は下値抵抗力が有ると理解され、底値間が急速に広がり買いを誘うものとされています。大きく下落した安値圏では重要な買いシグナルと言えるでしょう。